

# 一年間人生最大の夏休み、 専業主夫から得た俯瞰で見る視野の広がり

～3回目のオファーで再認識した“ホテルが大好き”という自覚への気づき～

名古屋駅まで電車で5分。都心にありながら周囲に高い建物が少ない金山駅前に建ち、30階のレストラン・バーからは名古屋市内を一望。昼夜ともに多くの人たちで賑わっている。2021年7月、ホテル事業再編を目的にホールディングス化を実現させ、さまざまな取り組みを行なっている。今回は“一年間の人生の夏休み”を通して、人間として、ホテルマンとしての在り方、生き方に気づきを得たという田實武之宴会部長にお話を伺った。



ANA クラウンプラザホテル  
グランコート名古屋  
宴会部 部長  
田實 武之氏

〒460-0023 名古屋市中区金山町1-1-1  
URL: <https://www.anacrownplaza-nagoya.jp>

洗練されたホテルのサービスに  
ワクワク、ドキドキ

**石原** 田實部長と出会ったのは東京・西新宿の「ホテルセンチュリーハイアット」で学生時代に配膳サービスのアルバイト時代に始まります。私は先輩で田實部長は後輩という関係でした。見慣れない田實という名前と鹿児島出身の個性的

な風貌が印象的ですがすぐに覚えた一人です。ところで、なぜ、ホテル業界に就職しようと思われたのですか。

**田實** 実は法学部を志望して名門大学を目指していたのですが二浪してしまい、進路に迷っていたところに同郷の友人に誘われて配膳会に入ったことがきっかけです。それが石原社長との出会いとなった「ちゆりせん」です。当時、芸能界で、例えば“すし”を“しーすー”など、反対にひっくり返すのが流行していたことから、センチュリーをちゆりせんと呼び、約35年経った今でも「ちゆりせん」の言葉とともに、人間関係も継続しています。目指していた法曹界とはまったく異なる世界でしたが、私は現在の奄美市、鹿児島県名瀬市生まれだったので、ホテルと縁がなく生まれて初めてホテルというものを知り、ホテルで見るものすべてがキラキラとかがやいて見え、洗練されたサービスにワクワク、ドキドキで、加えてちゆりせんの先輩たちもとても親切に教えてくださいました。当時、石原社長達が学生会を組織され、指揮されていたのですが、本当の部活感覚で先輩そして後輩たちとコミュニケーションがとても楽しかったことを今でも記憶しております。そんな経緯から迷うことなくホテル業の道を歩み始めたのです。

**FBで得た洞察力と喜ばれるアクション**

**石原** 今日に至るまで何度か転職されて

いますが、転職を決めたのはなぜですか。

**田實** はい。今まで4回転職いたしました。最初の転職は配せん人から正社員としての転職でした。このときは自分自身で売り込みましたが、2回目以降はすべて先方からお誘いを受けての転職でしたので、すべてにおいてやりがいを感じたことが一番のポイントでした。正社員を目指して入社したのは当時の岐阜ルネッサンスホテル、現在の都ホテル岐阜長良川です。宴会部の配属で宴会サービスキャプテンを務めました。その後、2008年の退職までに料飲部 日本料理「嵯峨野」のマネージャーやダイニングレストラン・バーのマネージャー、営業部としてプライダルや宴会セールスマネージャーを担当しました。

**石原** FBを通して学ばれたことはどのようなことですか。

**田實** FBやレストランウエディングを経験できたことにより、お客さまが今何をしてほしいのか、どのような目的でレストランに足を運んでいただいたのかなど、目線やしぐさ、会話から予測するという洞察力を養うことができました。レストランやバー、ウエディングは団体のお客さまとは異なりますので、よりカスタマイズされた対応が必要です。特にFBは毎日異なるお客さまがいっぱいいますので、常に先を読み、お客さまに喜ばれるアクションが求められます。FBを経験することはとても大切なことだと思います。



**石原** その後、ヒルトン東京へ入社されましたね。

**田實** 宴会サービスの分野を更に深めたいと思い、良いお話をいただきましたので転職を決めました。その後、名古屋からウエディングの話をいただき、ヒルトンの場合、オーナーが異なるため本来はいったん退職してから再就職となりますが、有難いことに転籍という形式で舞台を名古屋へ移したのです。その後、実は石原社長にはお話ししなかったのですが、ホテル業から転職するためにヒルトン名古屋を退職し、一年間人生の夏休みとして専業主夫をしていました。1年間、洗濯掃除から食事作りまですべて私が担当していました。一年間、立ち止まったことで俯瞰的に視野を広げて見られるようになったのです。

**仕事しながらのながら人生への終止符**

**石原** それは知りませんでした。人生の夏休みを経て何に気づかれたのですか。

**田實** それまでの自分は常に仕事ばかりでした。もちろん、家庭のことも顧みず仕事のことばかりに走っていて、周りのことが見えなくなっていたのです。何々しなが

ら何かをする、という具合でした。ところが立ち止まったことにより、時間的にも余裕が生まれ、自分そして家族と向き合える時間を持てるようになったのです。読書をしたり、掃除洗濯、そしてじっくり考えられる時間を持つことで、違う角度で物事をみることができるようになりました。人生の夏休みが実現できたこと、それは一年間、専業主夫の生活を認めてくれた妻の理解があったからこそです。妻には本当に感謝しています。

**石原** そんな時間があったのですか。そしてまたなぜ、ホテル業界に戻られたのですか。

**田實** 現ホテルのGMである島原が、3回もお声をかけてくださったことには驚きます。1回目のご連絡をいただいたときはホテル業界に戻りたくないと思っていましたので、2回目のときも同様にお断りをいたしました。もう、諦めていただけたらと思うところ、3回目のご連絡をいただいたのです。その熱意におされお会いすることとなり、そのとき、本人から直接、熱い思いを聞かされたとき、心の奥底で眠っていた“ホテルが大好き”という自覚が目覚め、再度、島原の下で挑戦してみようと思ったのです。

**石原** それは素晴らしいことです。島原総支配人の熱い思いが気づかせたのですか。

**田實** 以前は私も総支配人を目指していましたが、“日はまた昇る作戦”で島原総支配人の思いを成し遂げるための一助となり頑張っていきたいという思いで挑んでいます。

**常にポジティブマインドで切り替えを**

**石原** 日はまた昇る作戦とはどのようなことですか。

**田實** 例え準備万端に整えてもイレギュラーはあります。予想していた結果が失敗したとしても、その失敗を通して明日は一步成長している自分がいるということです。良いときは悪いことが訪れ、悪いときは良いことが訪れるものです。常にポジティブマインドで切り替えることが大切です。仕事に追われるとどうしても視野が狭くなりがちですが、若いホテルマンには自分の可能性は無量大であること、そして私自身のことでもありますが、いろいろな方に耳を傾け、自己分析し自分の形に変えていくことが大切であると思っています。また今後はこれまでの経験を若いホテルマンに伝え、本当のホテルとは、ホスピタリティとは、を共有できるチームを作りたいと思います。

**石原** ぜひ、諦めることなく頂点である総支配人就職を目指してください。さらなる飛躍を期待しております。

(株)ホスピタリティデザイン 横浜  
代表取締役 石原 健氏



神奈川県横浜市中区元浜町2-23-1-705  
URL: <https://www.hospdy.com>

〈プロフィール〉1965（昭和40）年東京生まれ。桜美林大学経済学部卒業／日本ホテルスクール卒業／ホテル産業経営塾卒業（第一期生）。ホテルセンチュリーハイアット（現ハイアットリージェンシー東京）で4年のキャリアを積み、1989（平成元年）年、ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテルの開業準備室に、第1期生として入社。開業後は主にセールスとして活動。39歳で販売担当部長となり、宿泊、宴会、婚礼、レストラン、イベント等の全ての販売を行なう。国内外からのVIPに対するおもてなしを行ない、4度にわたる皇室接遇担当の栄誉も授かる。また横浜青年会議所（JCI）のメンバーとしても活動し、2004年には100%出席賞を受賞。東日本大震災後、ウェスティンホテル仙台へ赴任、セールス&マーケティング部長として、総支配人の不在時には代行も務め、3年2カ月間復興支援の一端を担う。2014（平成26）年、(株)ホスピタリティデザイン 横浜を設立、代表取締役に就任、現在に至る。厚生労働省事業検討会委員、ホスピタリティ教育研究会会長、産業能率大学講師など、宿泊・サービス業界団体や学校、企業などで活躍中。